

「助川電気工業の経営理念とこれから」

助川電気工業株式会社

代表取締役社長 高橋 光俊氏



高橋 光俊氏

本日は、助川電気工業㈱の会社概要と経営理念、当社が目指す姿についてお話しします。

まず、会社概要についてお話しします。当社は茨城県高萩市に本社がある研究開発型企業であり、原子力で身につけた品質に特化した体質を最大限に活かす品質優先の企業です。当社の特徴は二つあります。一つ目は東証スタンダードに上場している企業であること、二つ目は非常にニッチな分野で活躍する企業であることです。茨城県に本社を持つ上場企業は十四社であり、当社はそのうちの一家です。ちなみに製造業で上場している会社は二社しかありません。また、当社は原子力関連機器などニッチな分野で活躍している企業です。当社はシーズ熱電対と呼ばれる温度を測定する工業用のセン

サーを初の国産化した企業であり、測温抵抗体や工業用のヒーターを製造しています。現在では、原子力関連機器に加え、半導体・FPD製造装置向け基盤ヒーター、熔融金属関連機器等も製作する「熱と計測」のシステムエンジニアメーカーです。

次に経営理念についてお話しします。経営理念とは経営者（創業者）の哲学や信念に基づき、企業の根本となる活動方針を明文化したものです。当社は四つの経営理念があり、これらの経営理念は創業者の経験と思いから出来ています。創業者である百目鬼用吉氏は元々チャレンジ精神が強い人物で昭和24年に助川電気のもととなる助川写真工業株式会社を起業し、その2年後に現在の社名となりました。昭和28年に工場火災が発生しましたが、社員や近隣住民、顧客、行政など様々な人達の協力を得て再建することができました。この経験が元となり、誠実、信頼、調和、誠意を旨とする現在の四つの経営理念が生まれました。

最後に当社が目指す姿についてお話しします。これからの当社は核融合関連の製品とア

ルミ電磁ポンプ関連の製品を二つの柱とし、今後力を入れて開発に取り組んでいきます。核融合による発電及び商用化には、まだまだ時間がかかると思います。その分、核融合発電に向けての試験研究等が継続されることとなり、当社が得意とする熱を奪い移送するための液体金属による循環技術や温度等の計測技術により貢献できる分野だと考えております。また、アルミ電磁ポンプ関連は当社のシェアが業界全体で1%未満であるため、ここでのシェア拡大を目指し、足元を固めていきたいと考えています。これからの当社は「技術力」による地域のシンボリック会社を目指します。

私がこれからの当社に求める人材は、返事がしっかりしている人材です。多少言っていることが曖昧でも大きな返事からは強いやる気や自信が感じられます。これから皆さんは様々な場所で発言、発表をすることがあると思いますが、大きな声で返事をして自分のやる気を周囲に伝えるようにしてください。